



# 國語

帝國教育會編纂

科第 學年 組



高學年用



## 時間表

土	金	木	水	火	月	曜時
						一時
						二時
						三時
						四時
						五時
						六時
						七時

第 號
使用始
昭和 年 月 日
使用終
昭和 年 月 日
檢 印

國民學校用

四 號 ② 更紙 三十張以上 四十張 (定價七錢)



學習ノート統制株式會社

まん中から左右へ

季	奇	帝	晶	展	盲	介	旨
淡	利	科	仇	朗	殆	規	却
覺	興	企	齒	永	岳	劣	舉



十一月五日 日曜日 晴  
 目をさますと、私は今日の  
 先の事を考へてゐると、起  
 床になつた。荷物を持って、外  
 へ出ると、雨が降つてゐた。  
 今日の面會は、陪屋の甲かと  
 思ふと、何だかいやであつた。  
 學校に着くと、急いで顔を洗  
 つて、神様に拜んでから、食器  
 を出して待つてゐた。  
 今日は、おいしく朝食をたべ  
 た。朝會が終つて、廊下にあ  
 る棚の上で、日記を書いた。

てゐると、もうお母様がいらっしゃった。私は嬉  
 しいの餘りにとんで行つた。お部屋の中でと  
 ても早くいらっしゃったので、大得意で、はくはく  
 して、荷物をゆっくりと取りかへた。そして、お母様  
 は、私の靴下に名前をつけていらつしやると、急に敬  
 戒警報になり、お母様は少し喜門先生とお話をな  
 されて、すぐお歸りになつてしまふ。私は「さやうなら」と  
 一言、がまんして言つた。その時は、悲しくて、ローも聞けな  
 かつた。と、いゝすぐに空襲警報になつたので、防空壕には  
 いらた。私のはいつてゐる防空壕に、面會人が六名はいら  
 した。時間半餘りたちやつと、敬戒警報にもどつた。面會人  
 は、歸つてしまふ。私は、戦地のお兄様の事を考へる  
 と、心配でしかたがなかつた。



今日、お兄様の使つていら  
 した萬年筆を、お兄が  
 下まつたお手紙のほつてゐ  
 たふうとうの中に入れて、待  
 て来て下まつたので、久しかり  
 で、お兄様の字を見た時は、嬉  
 しまつた。晝食がすむと、班のい  
 さい人、私は、みんなの大い  
 として、防空服裝を取りに行き、  
 大荷物をしよて、やと、學校の  
 裏門まで来ると、敬戒警報が  
 かいしよになつたので、がかり  
 てしまつた。荷物をあろ

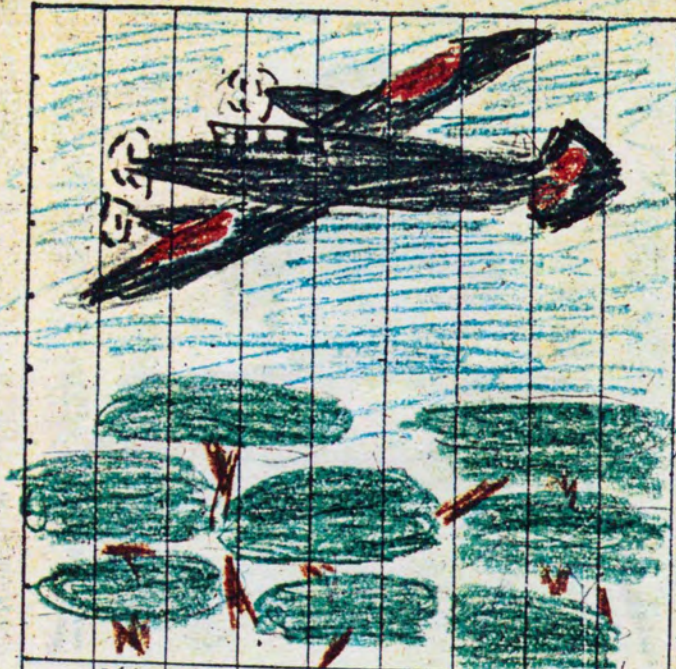
して、がっかりしながら、葉さんとお風呂にはいった。そして、せけんをおかりした。とても暑いお風呂で、よい湯持で、真赤になって出てきた。出る、とすぐお八つ、あまりおいし、あま、でけであった。



十一月六日、月曜日、晴。今日は、私のお當番なので、早く起きて、外へ出た。とても寒くて、手がしびれ、首がちぢんでしまった。私は、手をにぎりしめて、がまんをしながら、一生懸命でいた。お除日も終って、学校へ行った。行くと、す

ぐに朝食である。とても急がしい。朝會には、今日は寒いので、かけ足をしたので、とても暖かくなった。朝會が終ると、雨でぬれた防空壕の上には、重たい重たいたみを干してから、園舎の前に並んで、小平分、うへ巻を取りに行く用意をした。昨日持って来て下した冬帽子をかぶった。門を少し出た頃、いれんが鳴った。警戒警報だ。？みんなは、たけたとかけだ。園内に入り、防空頭布に突進した。防空服を着て、から、防空壕に、腰掛を入れ、干したたみを干した。二時間目から授業だ。休係には、喜門先生の國語を、一部五、六年と、しにや。國語と言っても、お話で、た。私は、先生のお話を聞くのは、大スキだ。次の時間、間は、修身で、又お話だ。今度は、人間の道の事で、

ある。私はよく守らうと思った。  
 やがて昼食になった。いやによいにほひ？カレーコ  
 にほひがすると思ったら、嬉しい事にカレーライスだっ  
 た。早く食べたんで、口がむづむづしてゐる。又、かけ  
 はけはないのかと思ふと、つまりなくてしかたがない。  
 半分位たべると、たうたうがまんしきれなくて、先生に  
 お聞きしにいった。すると、かけてもよいとおっしゃった。私  
 は、喜びの聲をあげた。全部かけてしまったら、おつ  
 みたいうすいので、御飯の中にしずんでしまった。やが  
 て、ラジオが鳴った。敵警報かいじよだ。又、聲を張りあ  
 げて喜んだ。もう、かいじよになったので、防空壕から腰  
 掛を出した。午後から、小平分しようから、まきを運んで  
 とても重くて腕がぬけさうだった。お八つにらっか



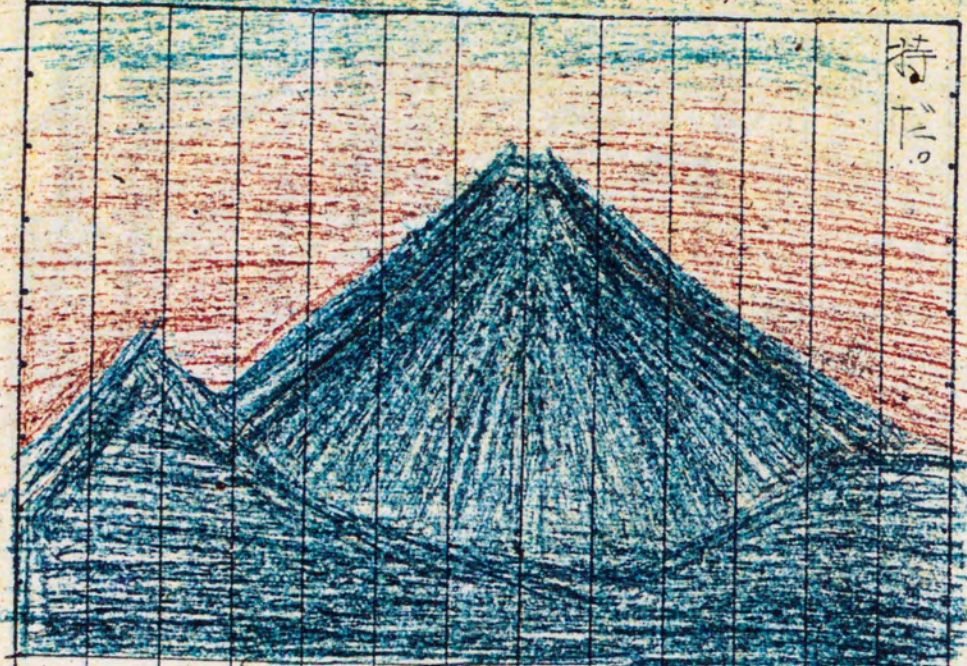
せいのはいった、おいしいおせんべえ、あなたの25位あり  
 ためであった。やがて村野さんの家へ行くと、すぐ寝巻  
 に着かへ、30いくつかで、乙葉さんとお手玉をした。数カ  
 大いので、とても面白かった。  
 ナー月七日火曜日 晴  
 けさ、とても寒い。お食事  
 がすむと、椅子を持って、目  
 上ぼこをした。とても暖か  
 い。私はお手玉をした。理科  
 の時間は日記を書いた。音  
 楽の時間が来た。オルガンを  
 授業する場所へ持って行くの  
 は、おだいた。私は、いそいで、腰

掛を運んでからお友達が重さうに持って来る。オルガ  
ンを手傳った。音楽にオルガンの音が飛行機の爆音で、  
よく聞えない。私は空の方を見ると、日本の勇ましい  
飛行機がとても早い早さで、どうどうと飛んで行く。私は飛  
行機にはげまされて又、音楽にむちうになった。三時間目  
も、又、自習だったので又、日記を書いた。午後の第一時間  
目は、武道で、衣着をぬいて、水道の方に何かって歩いて行く  
と、さいれんが鳴った。又——警戒警報だ？、急いで、學校  
に歸り、防空服裝がすっかりすんだところ、空襲になったので  
頭布をかぶって腰持を持って、防空壕に急いだ。はいると、高  
射砲の音が、たちまち聞えた。とても大くつた。とても  
長く入ってゐたが、やっとかいじよになった。出ると飛行機雲  
が大へん一ぱいいついてゐる。氣持の悪いのや、すれりな



のがある。遠くに二本見えた。あの一本が敵機で、もう一  
本が敵機を追った、勇ましい日本の飛行機だ。たのだ。にく  
らしくも一機、本どに入って来た。とても、大まかつたさうだ。た  
高射砲がどどかなりと聞いた時はとても、しゃくにさけた。  
十一月八日 水曜日 曇  
今日は、大詔奉戴日である。  
こくばんにも、お式のある事が  
書いてあった。朝食は、とても御  
ち走だ。お汁に、まぐろのには  
のである。まぐろは、とても  
とてもおいしい。  
私は、手がつめたくて、つめたく  
てこぼりつゝやうだ。たのだ。

たき日にあたってゐた。運び當番なので皆の食器  
 をふいてかごに入れてゐた。ものすごくつめたいには驚  
 いた。やとぜんぶふけたので、お皿をつみかさねてゐる  
 とたいこが鳴った。私は大急ぎで服装をたがして部屋  
 に入った。お式が始った。しーんと静かである。やがて式  
 も終つて、慰問文を書いた。圖工の時間には、この間の  
 書きかけの手さげ袋にえのぐをぬった。とてもむづ  
 かしいのでいやになつてしまつた。國史の時間の終に近  
 くなると雨が降つて來たので、椅子を部屋の中へ入れて、中  
 で、晝食をいただいた。午後は、作業で、門の前の松葉を  
 あつめた。私は、小さい方から四人の中に入れて、松葉  
 をどんどん運んだ。とても早くすんだ。それから皆で、  
 たき日にあつた。たき日は、暖かくて、より氣



持だ。

十一月九日、木曜日 晴  
 今日ほどよいお天気だ。学  
 校に向かつて歩いて行くと、西がは  
 の方に美しい富士山が見える。  
 水砂礫のやうに真白に雪がかか  
 であつて、とてもきれいだった。  
 やり山々の色や、前後の山々  
 がはつきり見えて、とてもきれ  
 だ。もう雪めがかった山も見え  
 た。けいこも、おいしく朝食をた  
 べた。一時間目には、頭を洗は  
 せて下まつた。私は、半そで

になって、先生にお湯をいただいた。お湯なので、とても  
 暖かい。しばらく頭をつこんでおた。せっけんがないので、  
 エキさんにおかりした。二人とも並んで洗った。あぶく  
 を一ぱいだして、痛いのをがまんして、指の先で、ごしごし  
 こすって、一生懸命に洗った。たちまちお湯は黒くなった。  
 よく洗へた。湯上りたおるで、ぎゅうぎゅうこすってから、  
 鏡の前に行って、頭をとかした。ずい分さっぱりして、気持ち  
 よかった。今日は、午前中も午後もずっと授業であった。  
 六時間目は、私達は、作業となつてゐた。森先生とおさ  
 んぽがけりに、二部五・六年は、八百屋さんに行った。私  
 は、何を持つのかと思つて、首を長くして待つてゐたが、私は  
 何にも持たないでよいのだ。遠くに富士山が雪をかぶつて  
 あるので、青い山々の間に白く光つてゐた。夕方は大す



きな、すいとんだ。山が、タヤみにつつまれて、きれいに見えた。

宿舎へ歸ると中に、やはり富士

十一月十日 金曜日 晴

今日も晴れた。お天気が續  
 いて、大へん嬉しい。お裁縫の  
 時、きれをたつた。私の、長  
 いので、きれをどふいふふう  
 にとてよいが、ちよつとわから  
 なくなつてしまつた。晝休に  
 お手玉をしてゐたら、五年以  
 上は、さつまいもを掘る事に  
 なつたので、私は、とびあがる  
 ほど嬉しかった。さつまいも

畠の前に並んだ。最初にうるをかきで取ってまただいた。私は一つめ、さつまいもの根を見つけて、そこを一生懸命で掘り出した。しまひには、めんどくさくなで犬みたい掘り方で、どんど掘った。小ていのばかりしか出てこないのだから、びっくりして、突っ込んで、ぼんやりしたまま、そこいらをうろついておると、どこからでも、うわーニンな大きい。と聲を出してゐるので、ふと、そっちを見ると、とても大きい。私は、そこを後からすどちがふ方へ行って、相良さんといつしよに掘った。今度こそは、大きいのが出て来た。いも掘も、やっとすんだ。こくば、この前に行くとき、大きいのが、一ぱりあった。それを見た時は、とても嬉しかった。足を洗って、まもなく、一生懸命掘った、さつまいもののお八つが出た。私



の掘ったさつまいものなので、よけいにおいしかった。

十一月十一日、土曜日、晴

けさは寒いので、みんなで仲よくいっしょに大島さんになは飛びをおかりして、愉快に飛んで遊んだ。あまり、元氣を出しすぎて、朝會のまぎには、汗びっしょりになってしまった。ので私は一枚、めいでした。地理の時間に、石田先生が黒旗をといふ。何だか、かはいさうなやうな、こはいやうな面白いお話をして下さった。次は

理科で、弘田先生が鼻笛を作って見せて下さった。とてもよい音がした。午後、遊んでゐると八百屋さんが来た。私は嬉しかった。夜、皆で動物合はせをした。



十二月十二日 日曜日 曇り  
お食事がすむと、又なは飛びをした。朝會がすんだ時は、のどがかわいてゐたので、お湯をのんで、ゆすり椅子にすはて休んでから、お湯をもらって、おせんたくをした。乙葉さん到手傳っていたので、一生懸命に洗って、やっと終わると、すぐお晝になつてしまつた。私は、あまり

早いのに驚いてしまつた。午後、机の前になると、三部六年の女の子が二人で、遠くの方から、白い犬が何かをつれて、かいて来た。私は、その時嬉しかった。鈴をつけたかばい、いハ木だった。それから、乙葉さんとボールをしたりして遊んだ。



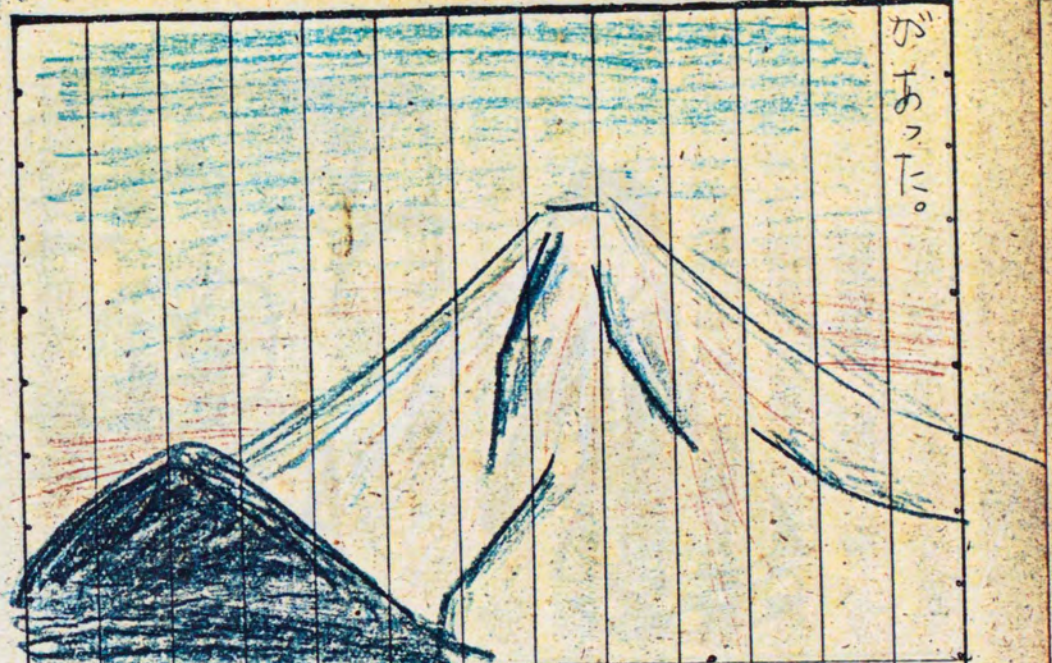
十二月十三日 月曜日 晴  
今日は、學校全體で、小平分しようへ、たき木を取りに行つた。一人で、たき木が山のやうに積んである上にのつて、長いたき木を拾ひあつめた。私は、須田さんと一しょに持つて行かうと思つて、二人でさがしてゐると、何だか、切れさうなな

はがおたのでしめたと思つて、それでしげうて二人で思ひ思  
ひで持つて行くと途中で切れてしまつたので二つにわけて  
電線柱のところまでこつたいて、ちと樹木にいた。その時  
は、肩がぬけてしまつたやうにふかれた。おながもすいてゐた  
ので、晝食は又かへつてゐた。十一月十四日火曜日 晴  
昨日先生がラッパを持ってい  
らっしゃつたので、今日はきつと  
攻防戦があるに違ひないと  
思つたら、やはり攻防戦をす  
る事になった。とても嬉しい。  
ざんりやう組と戦かふのだ。二  
部五六年と、三部三年は勢ひ  
よく先とうにたつて、突進し



て行つた。おは喜門先生のもとをどこまでもくつ  
いて行つた。やがてある林で、赤軍の「ばん入きい」  
高等射と出あつた。私は界井さんと保坂さんと田  
はず、大聲をばりあげた。一年生もみた。大橋先生  
にしがみついてゐるので、どんどんぼりをしてしまつ  
た。泣いてゐる人もみた。全部はりよにしてしまつた。  
二・三回出合つて、貯水地の所で又、全部出あつた。  
みんなずるづるかしてゐるので、私は、おかしくて  
しかたがなかつた。何がなんだかわからないので、大  
聲ばかり張りあげてゐながら見てゐた。やがて攻  
防戦も終り、ラッパが、けたましく鳴つた。堀先生のお  
話によると、兩軍とも、ずるをしてみたので、どうしてあつた。  
午後、お達は、さつまいも堀をした。おハフは、ぱんとさつまいも

があらた。



十一月十五日 水曜日 晴  
今日もよく晴れて、富士山がき  
れいに立ってゐた。  
午後は、い平分しようへたき木  
を取りに行った。先生が、出来  
だけ門からお出しなさいと  
おっしゃたので、私は、動けないは  
どいばい、背中にして、休め  
休め、學園へ向かった。  
おなかもすいてゐるので、た  
き木をおくと、すぐに、食器を  
持て来て、自分の椅子にとど  
すんと、すはつて、ぼんやり

してゐると、先生が、あとかうくる人達のおう  
えんをしておあげなさいとおしぎたので、私は、し  
かたなく、重い腰をあげて、やっと外まで行くと、みん  
な重さうにゆっすり、とぼろぼろ、落しながら、みさずで  
来る、少し行くと、相良が、びっこをひきながら、木  
を持って来るので、私は、それを持ってあげた。歸て来る  
と、又、どかどか、とすはつてしまった。やがて、嬉しい晝食になつ  
た。午後から、武蔵療養所へ、體重を測りに行った。私が  
めがうとしてゐると、皇后陛下が、といふ事を聞いて、皇后  
陛下が行啓あそばされたのかと思つて、驚いてゐると、皇后陛  
下がお授けになつた。御菊が通るのだ。私は、はつとし  
た。とてもよい香のめつたにないきれいな菊だ。やがて、體  
重を計った。私は、三十八で、一キロふえた。私は、とても嬉しかった。



十一月十六日 不曜日 雨  
 今日はいやな雨だ。一時間目は  
 体操であたが雨なので、自習  
 をした。お裁縫には、私はお  
 裁縫箱を忘れたので、日記を  
 書いてゐた。今日から、私と須  
 田さんと七理さんと、三人で湯  
 度を計った。  
 授業が終つて、お休み時間に  
 お手玉をした。  
 夕食は、私の大すぎなすい  
 とんであった。



十一月十七日 金曜日 晴  
 今日、は寒いので、朝會の時、  
 つな引きをした。何が何だ  
 かさっぱりわからなくて、ほし  
 たうにふざけ、半分の愉快  
 なつた。お裁縫で愉快のために  
 暖かくなつたやうだった。  
 お裁縫の時に、私は、えりを  
 たった。晝御飯が、すむと、私  
 は、とこやさんの所へ行って、須  
 田の来るのを待つてゐた。とこ  
 屋さんは、急いてゐるので、とて  
 も痛かった。終ると、けが、み

ちかくなつたので、とても寒いので、歸りには防空頭布をガぶって行った。



十一月十八日 土曜日 曇  
今日はとても寒いので、ちかこまで歩いて行った。洗面がすむと、寒くて江方がないので、たき火にかけつけて、喜んであたたまるると喜門先生がたき火にあたってゐるやうではいけないうけ足しとおっしゃたので、やってたき火からはなれて、かきねの外へ出た。  
すると先生が貯水池の所

までかけ足し。一ばん早く歸つて来た人から御飯をやるとおっしゃたので、私は、どんどんかけ出した。人を追ひぬいて行くといふ池さんがつきとばしたので、ころんでしまった。急いで起きたがもうくたびれてしまつて、苦しくて、たまらなくなつた。どんどん追ひぬかれてしまつて、一ばんびりになつてしまつた。寒いので、手足はちぎれるほどつめた。体も、ぞくぞく寒くなつて、苦しくて、もういやになつてしまつた。皆に、ずとはなれてしまつた。やつと歸ると、ちやうどお食事になつた。暖かい、あまい、とてもおいしい。私の大すきな、いもがゆであつた。二時間目は大掃除であつた。とても寒くて、たまらなう。大掃除がすむと、たき火にあつた。運動場の方から、松葉を運んだ。私は、くままで

松葉をあつめてゐると岩丸先生がよく働いたか  
らとおっしゃつて、一ばんよいところにあたらして下さ  
つた。今度は、顔はほてり、手はのび、暑つくつてし  
まった。  
それから、眞赤になつて、火にあたるとのさやめて、机へま  
どらうとするとお晝になつたので、急いでせきに着い  
た。おなかがすいてゐたので、すぐにすはつて待つてお  
た。  
午後、すこし雨が降つて來たので、お部屋の中で  
授業をすることになった。  
次の授業はお習字だ。始りのたいこになつた。私  
は急いですみをした。やっとこくになつたと思つたら、お  
八つのたいこが鳴つたので、がっかりしてしまつたが、



やはりお八つは嬉しいが、とてもおいしかった。

十一月十九日 日曜日 晴

今日は、嬉しい、えん、藝大

會である。

とてもよいお天気だ。

喜び勇んで、学園に行つ

た。

朝食がすんで、少したち

いすや、机を、部屋の中へ

へれやうとしてゐると、私

のお母様が、面會日のつ

りで、いらつしたので、困

つて、しまつた。私は、急い

で、お母様のところへ行き、かきぬのところから  
わけを話しますと、どんどんひきかへしておしまひ  
になつたので、私は、おれまあと思つて見てゐた。  
お晝は、ござの上、すはつてたべた。

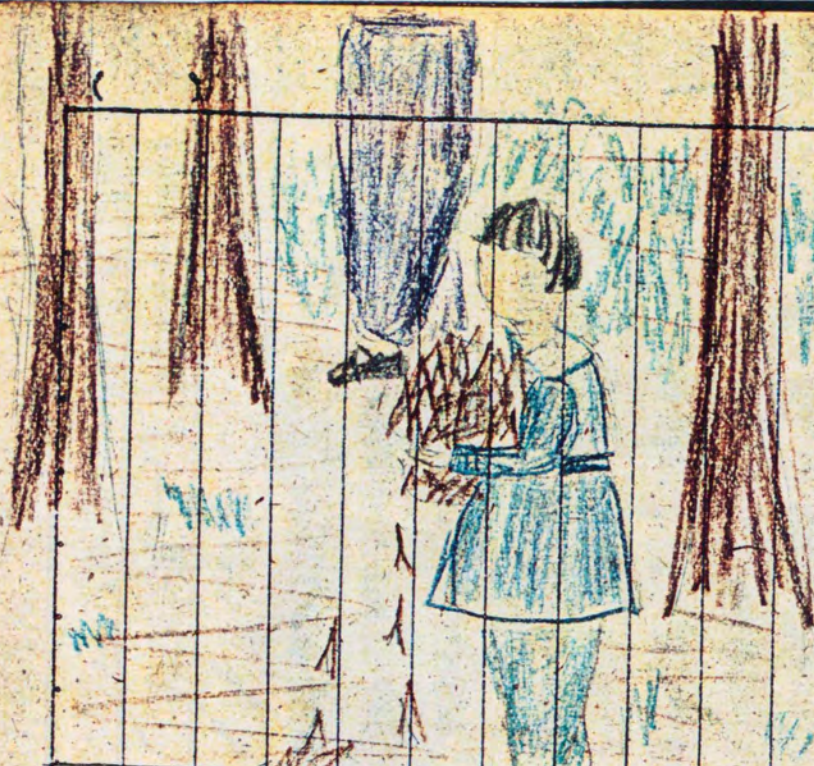
お晝食がすみ少したつと、大勢のお客様がいらつしや  
た。私はお母様の所へ行つて、荷物を引きかへした。  
いよいよ待ちに待った、えん勢大が始つた。最初に、面  
白のお話でした。次々に面白、おしばぬや、先生の手に  
ななどがあつました。おしばぬのお上手なのに、大變  
びくりました。だんだんお母様が西に傾き、しづん  
だ頃に、愉快な楽しいえんげい大會も終つてしまひま  
した。それでも、とても面白いので、全部が目に浮かんで、  
忘れられませんでした。今日は、えんげい大會な

ので、晩のお食事には、おすしや、それぐれ、とても御  
ち走でした。今日は一日、ほんたうに楽しい日でした。

十一月二十日月曜日 晴

今日も晴れた。一時間目の圖  
畫の時に、手さげの色をぬつ  
た。

えのぐなので、とてもむづか  
しがつた。二時間目の体操の時  
に、園内の松葉を揺つたが、寒  
いので、みんな、日なたの所を  
あつめた。午後、お母にけい  
つた。今日も、おいしいおハ  
ツがあつた。





十一月二十一日火曜日曇  
 今日、午後からみん  
 で、すすきあけを取りに行  
 った。私は、乙葉さんといっしょ  
 取った。あしたつと、喜門先  
 生にあつたので、今度は先  
 生のあとをくっついて行った。  
 とても一ぱいあつたので、どん  
 どん取った。すると、鳥がば  
 ばと飛んで出たので、そ  
 こへ行ってみると、ぐみが一ぱ  
 いあつた。又、ぐみ行くとき、先生  
 が、ちよつと来いとおっしゃつ



十一月二十二日水曜日晴  
 行軍  
 今日、嬉しい行軍です。  
 朝外へ出て、空を見ると、大  
 へんよいお天気だ。  
 私はとても嬉しかった。  
 急いで、防空服を着て、玄  
 關の前に並んだ。  
 朝食のぐすんでから、お

たので行って見ると、松ヤにぐいぱいあつた。とても  
 よいにはひがぶふふんした。ヤがて、すすき取りもや  
 めて、學園に歸った。おいしいお八つ、ヤつまいもが  
 あつた。

べんたうをつめた。私は行軍の嬉しい事の中の  
一つはうめぼしべんたうが嬉しいのだ。  
やがて出発した。どんどん歩いて行き、一つの神社  
まで来た。もみぢが紅葉してとてもきれいだつた。  
又ずんずん行き、ふみ切りをてはって、少し行くと、  
左の方に美しい富士山が浮かびあがって見えた。  
いろいろな山々も富士山の横に並んでゐた。又、一  
の神社に来た。それからある學校で少し休んだ。  
又どんどん行くと、又神社に来た。参拜して、又歩  
き出した。道には、かんやういもが干してあつた。とて  
もけしきのよい所に来た。こゝが公園、とても高い  
所下を見おろし、がらおいしくうめぼしのおべんた  
うをいただいた。

やがておとももよいけしきなので私はほんたう  
に忘れられたい。貯水地の屋根もきれいに見えた。  
繪に書いたとこ<sup>やうな</sup>りだつた。やがて、重い足へひきずりな  
がら學園に歸るとよいにほひがした。何かと思つたら  
大すきなおいもの天ぷらだ。晩御飯のおかずだ。五  
つづつ。私はとても嬉しかつた。



十一月二十三日 木曜日 晴  
面會日  
今日は、楽しい面會日です。  
朝、洗面の時、きれいに顔を  
洗ひ、元氣はつらつとして  
待つてゐました。日記を書  
いてゐると、お母様がいらつ

しやつたので、日なたのところへござを持って行  
 った。面會をしてゐました。乙葉さんはいつしよに  
 ゐました。すると、西村さんが、お風呂よ。よ呼  
 びに來たので、急いで洗面きを持って門を出ると  
 乙葉さんのお父様と弟さんがいらつしやつた。  
 私は女學校へ行つて、急いでぬいでお風呂へはい  
 った。眞赤になつて出て來た。  
 すると、まもなく晝御飯になつた。お晝御飯が  
 すむと、又私はとんで行つて、いろいろな事を話  
 さんとすると、まだお食事をしていらつしやつた。  
 今日は、お母様が、四時近くまでゐて下さつたの  
 で、とても嬉しかった。  
 やがて今日も一日、樂しく終つた。



ナ一月二十四日 金曜日 晴  
 今日も晴れた。午前中は小平介  
 しょうて、まきを取りに行つた。  
 一ぱい林から木を外へ出した。  
 一ぱいになつたので、少し行くと  
 先生が「出ろ」とおつしやつた。の  
 で垣根をのり越えて外へ出、  
 一ぱいしよつて農園に何かつて  
 歩いて行くと、弘田先生が「早  
 く門の方へ行け」とおつしやつた  
 ので、道においたまま、急いで  
 門へかけつけると、皆が並んで  
 待つてゐたので、急いで列へは

いつて門を出て行き、たき木を持ってゐると、敵戒警  
報になつたので、急いで、學園へ歸り、防空  
服裝をし、腰掛を入れて、防空壕の中へはいつた。  
なみなか、いじやにならぬので、ずつと中にはいつてゐる  
ともうすぐ晩になりやうだ。おなががすいてゐるので、  
おなかのすいたため、ちやくちやくの歌を歌つてゐた。  
やつとかいじやになつた。

外へ出ると、日も、何かふの松林の方にしづみさ  
うだつた。

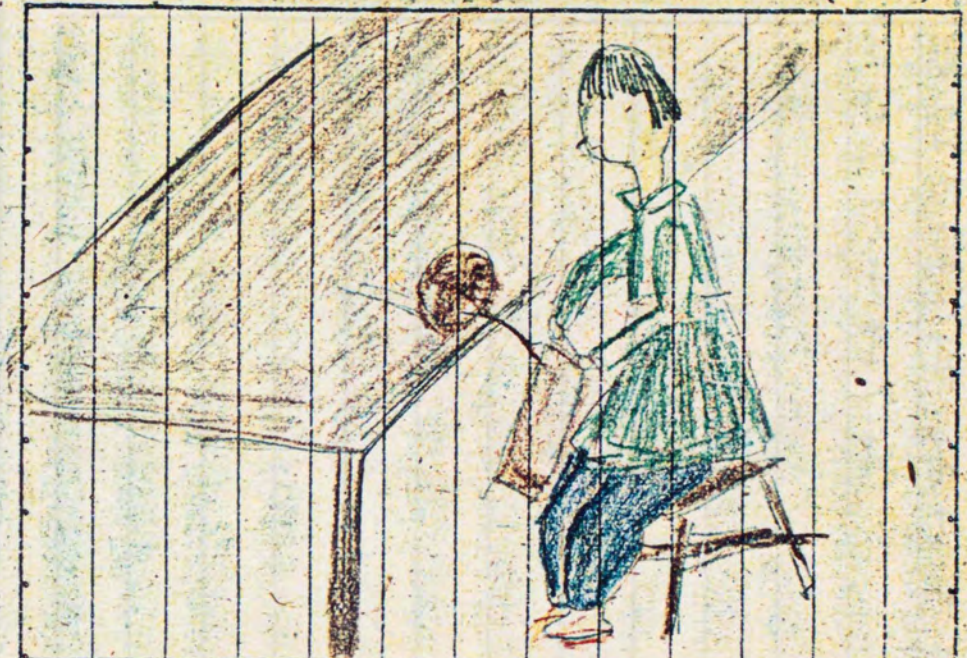
お書御飯は、とてもとてもおいしかつた。  
それから、すぐに夕食であつた。代用食の、さつまい  
もだつた。とてもおいしかつた。終つたか終らない、う  
ちに五・六年集合になつてしまつたので、口に、一ぱいほ

うばつてしまつたので、苦しくなつてしまつた。

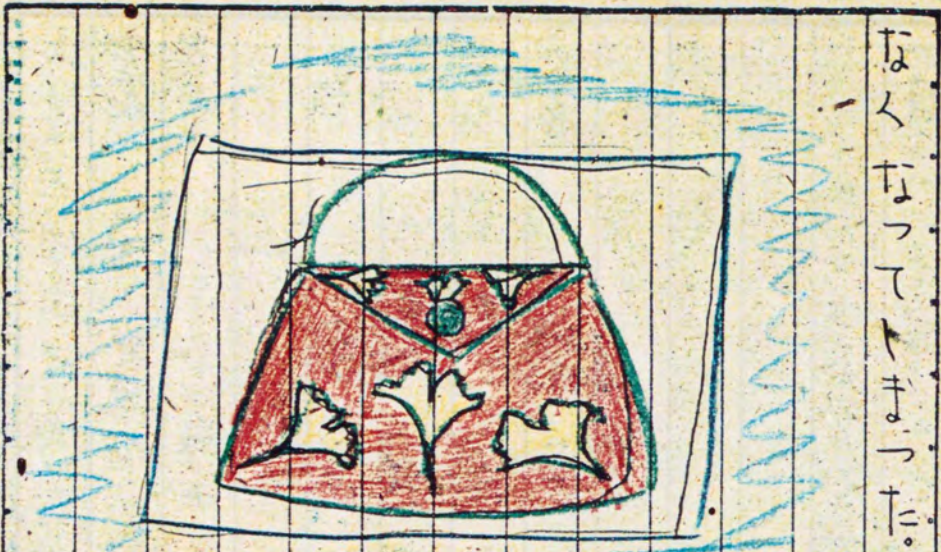


十一月二十五日、土曜日曇

今日の三時間目の理科の  
時間に、鼻笛を作らうとし  
て、竹を切つてゐると、さいれ  
んが、ポ  
と鳴り出したので、急いで  
防空服裝になつた。  
それから、お書御飯は、場  
のまはりで食べた。  
とてもおいしい、大すきな、  
カレーライスのおかずが  
あつた。



十一月二十六日 日曜日 晴  
 今日、四・六年の面會日  
 なのでみんな、とても嬉し  
 かったです。  
 私は乙葉さんに毛糸をお  
 かりして、一生懸命にメリヤス  
 とカーターを練習した。  
 午前中はあみものですん  
 でしました。  
 午後から勉強をしやうと  
 思ったら、又、きらいな、ヤ  
 ィルンがボ——  
 と鳴ってしまったので、出来



なくなつてしまつた。

十一月二十七日 月曜日 曇  
 今日、の一時、間目の圖畫の時  
 間にむづかしい、手さげの圖  
 あんを、やつと書きあげた。  
 まもなく雨が降りだしたの  
 で、園舎の中へはいつた。  
 お晝御飯には、又、今日も、  
 おいしい、さつまいもの塩に  
 がでた。  
 よんかんで、やつくりとたべ  
 てゐると、又、敬戒警報にな  
 ったので、急いでたべて、防空

） 販装になった。あまり早くたべたのでとても苦しくなつてしまった。

十二月二十八日 火曜日 晴	今日はお天	氣になった。	朝、列をただして、歩いて	行くところだかい美しい、真白	なきれいな富士山が見えた。	まじりの山もきれいに見え	た。	今日の三時間目には、お風	呂にはいった。とてもよい	お風呂だった。
---------------	-------	--------	--------------	----------------	---------------	--------------	----	--------------	--------------	---------

十一月二十九日 水曜日 晴  
開校記念日

十一月二十九日 水曜日 晴	今日はおめでたい開校記	念目である。	朝は、園舎の中で、お式を	した。二時間目の工作の時に	小方六年用のグラインダーを	須田さんと組になつて作っ	た。	お晝にはくまいの、真白い、お	いしい御飯をたべた。	真夜中に空襲になつてしま	つたので、村野さんの家の防
---------------	-------------	--------	--------------	---------------	---------------	--------------	----	----------------	------------	--------------	---------------

空場にはいった。ほら穴ではいる時に橋を渡って行

った。少し雨が降ってるたのですべりさうで、とてもこはかつた。私は出る時に橋のそばで、ころんで、モーフを、真黒になつてしまつた。

十一月三十日 木曜日 雨

今日は、昨日の晩に空襲になつて、寝られなかつたので、朝、おぬぼをした。それでもまだ、大へん眠かつた。

夜見さんの組の三部五、六年は、私達の授業をして

ぬるころにやつと来た。

お裁縫の時に、防空服装りうは着をぬつた。

十二月一日 金曜日 曇ち雨

今日も又、雨が降つて来てしまつた。

四時間目には、お風呂にはい

つた。私達の學校のお風呂は大

へんよいお風呂だ。とても暖かんで、真赤になつてしま

つた。地理の時間にならひ先生

が、二くばるにお書きになつ

たのまうつすのを、大へん  
困った。とてもむずかしいか  
つた。

十二月二日 土曜日 晴

今日の午後に二部五・六  
年畠畠のほり返しをした。  
とても暑くなつたので、白  
の下着一枚になつてしまつ  
た。ほり返えがすんでから  
一ばん遠くの畠のさつまい  
もほりをした。とても一ぱ  
いさつまいもが出て来た。  
ある三時に、さつまいものふ

かしたのが出た。

晩御飯には、おいも御飯で  
あつた。

十二月三日 日曜日 晴

三年 面會日

今日は三年生の面會日  
である。

一部三年の石川さんが来  
たので、一部三年は大喜び  
であつた。私は日記を  
書いて、午前中をすませ  
てしまつた。

午後に少ししたつと、空襲

(い)

になつたので、私達は、防空壕の中にはいつても  
お八つにさつまいもがあつた。  
壕の外へ出て、くばり終つたところ、たいていになつて  
しまつたので、壕の中でおいしくいただいた。

十二月四日 月曜日 晴

今日は、げたをばいて来た  
りで、げたに土がくつらいて  
困つてしまつた。

朝會の時に、かけ足をして  
ごんごん行くとつかれてし  
まつた。

しもどりでとて、道が悪か  
つた。歩いて行くので、ごん

へ行くのかと思つたら、竹やぶの所で止まつてしまつた。  
いさいじゅんに、並んだと思つたら、療養所の所まで、  
かけ足である。おぼいはいれただけで、くたびれてしまつ  
た。一生懸命走つた。ついた時は、くたんだつた。わり合  
ひに後の方であつた。走つて来たじゅんばんに、並んで、  
學園に歸つた。

十二月五日 火曜日

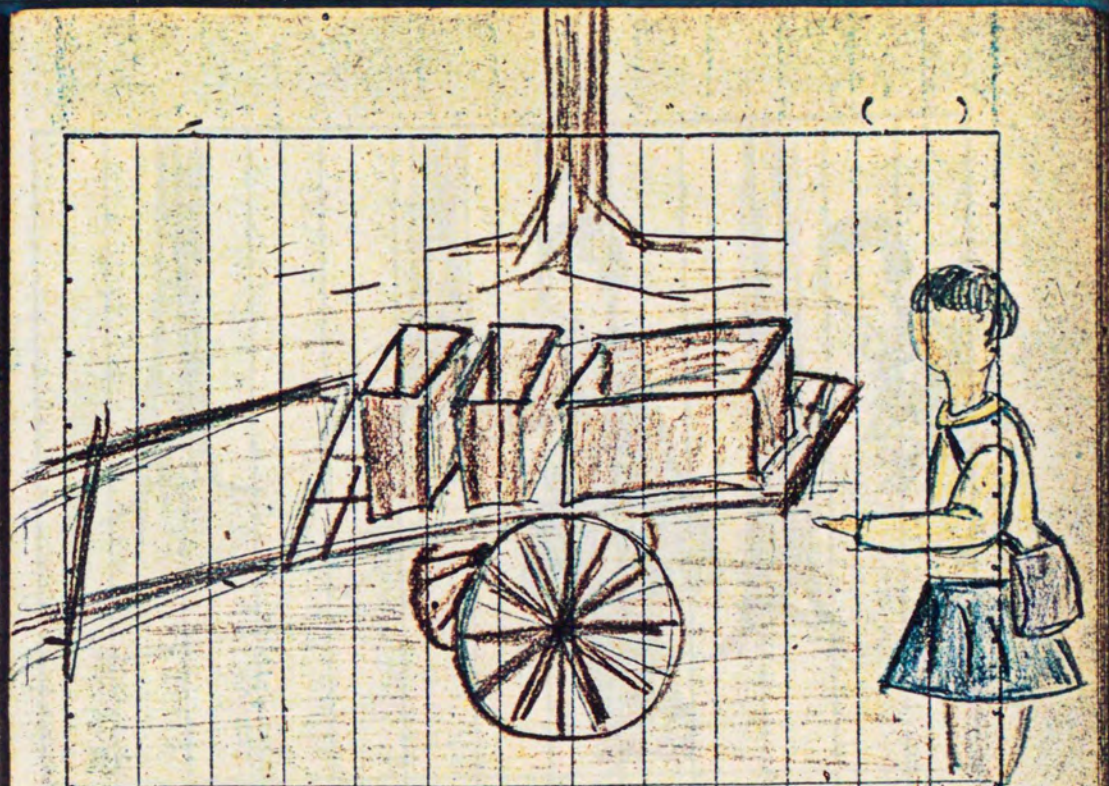
學藝會

今日は、嬉しい學藝會で  
す。

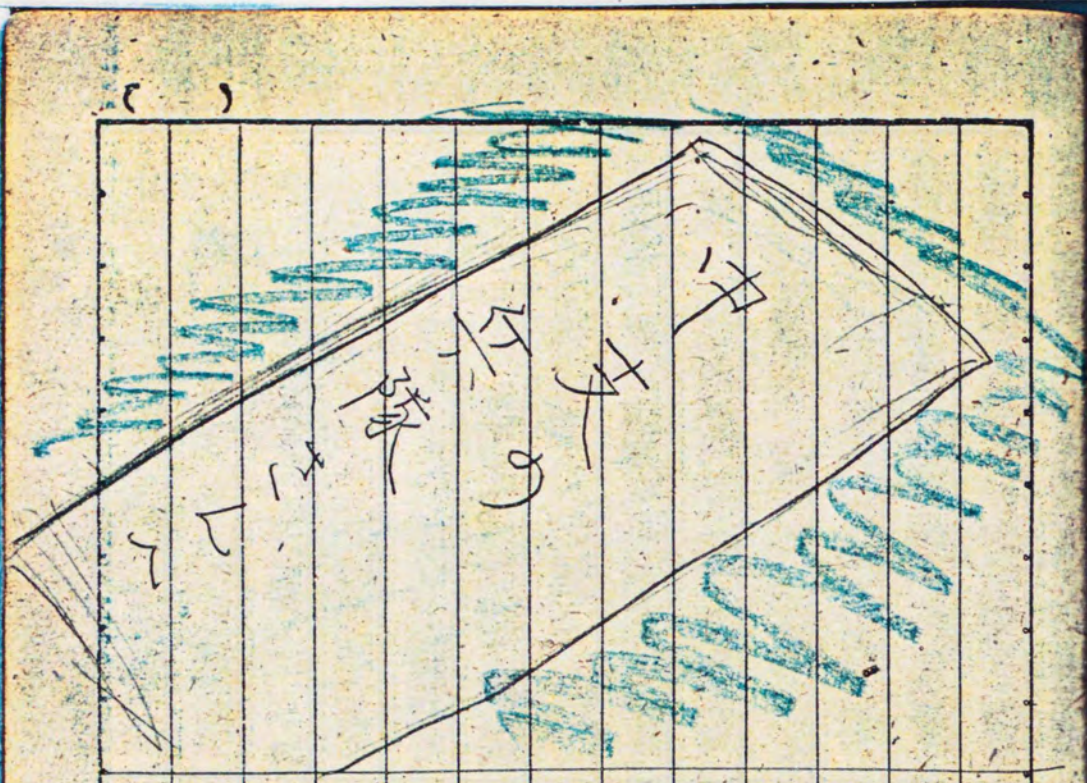
朝會の前に、相良さんが分  
ルガンをおひいて、歌をおけい  
こをした。

今日の班長は私なので、弘田先生の所へ行き  
わらばんしな、四枚いただいて、二枚づつなげて、  
私達のするものと、第二學期發表會と書くのだ。  
プログラムを作るのだ。  
字は、喜門先生に書いていただいた。  
繪は、之葉さんと松岡さんが書いた。  
お晝のおかずは、おいしい忘れられない、天ぷら四枚づつ  
だった。午後から、發表會で、武藏野療養所の  
講堂へ行った。  
しばらくして、發表會が始まった。次々とやって行く  
とても面白い。私達は、歌を歌った。傷痍軍人の方は  
面白さうに見ていらつしやうした。私も今日が一ばん面  
白いやうに思った。今日はとても楽しかった。

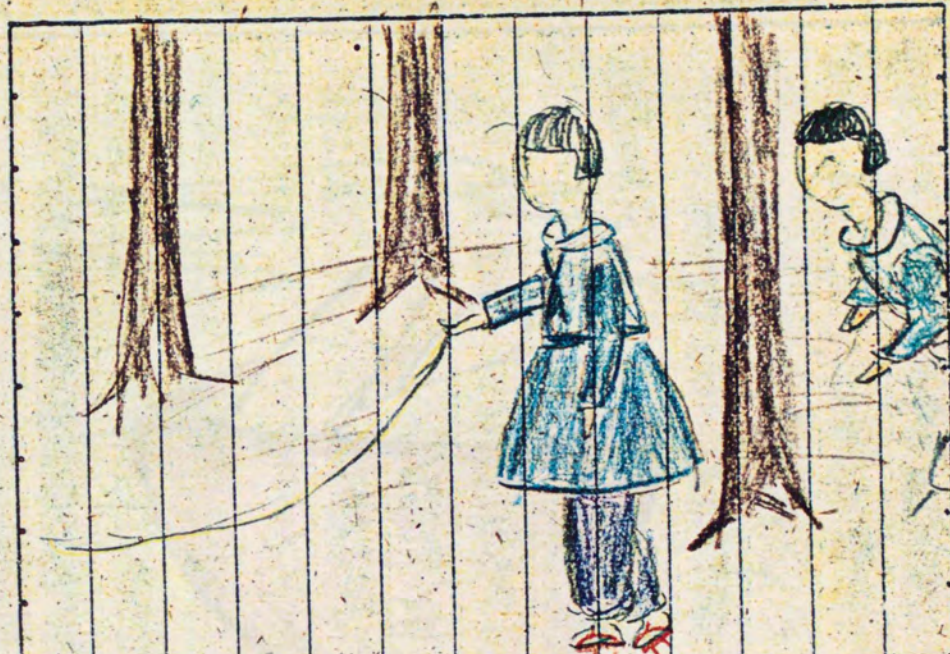
十二月六日	水曜日	曇
今日は、いつもよりも、とても寒い。		
朝會の時に、暖かくなるやうにならな引きをしたので、私は、ほんたうに暖かくな		
った。		
寒かったが、つな引きをしたので、大へん暖かい。私は、つな引きはやはりいいな。と思		
った。		
夜中に又、警報が出てしま		



十二月七日 木曜日 曇  
今日は午前中に一・三  
班がせきたんから運び  
をしてゐないので、私は、  
日記やいろいろなことを  
してゐた。  
私は午後にせきたんから  
を運んだ。  
遠くへ行き、せきたんを箱  
に入れるのはなかなか  
むづかしかった。  
それから、歸つてから、お  
風呂にはいった。



十二月八日 金曜日 晴  
大詔奉戴日  
今日は、大詔奉戴日な  
ので、朝に園舎の中で  
お式をした。  
一時間目、英語の時間には、  
中支の兵隊さんへお手  
紙を書いた。  
私は、中支の兵隊さんへ  
出すのかと思ふと嬉しく  
て、心をこめ、一生懸命に  
書いた。  
繪も書いた。



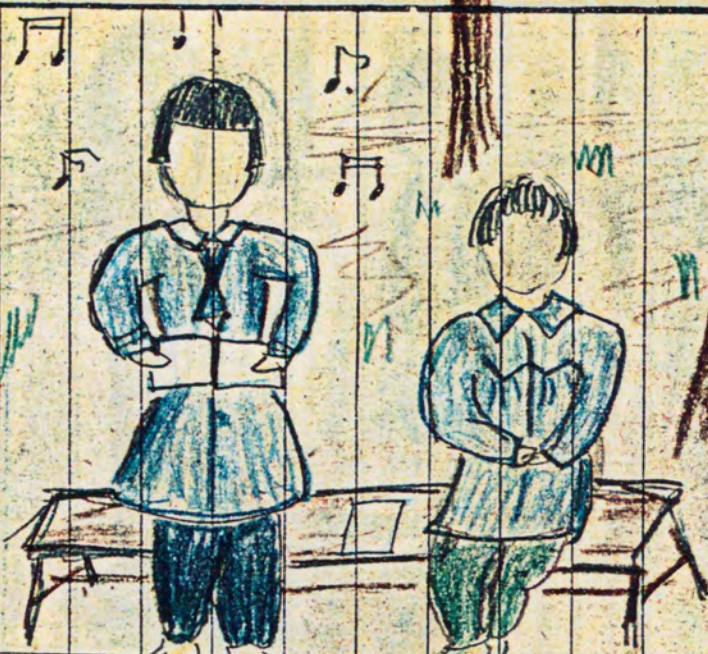
十二月九日 土曜日 曇  
 今日、少し、ばらばらと  
 あられが降って来た。  
 あられが降ったので、何だ  
 か少し嬉しかった。  
 夕方、日がかげつて、と  
 ても寒かった。なので、私  
 は、西村さん達と、なは  
 とびをした。  
 しまひには、人数が少く  
 なったので、かけずりまは  
 りとても暑づくなつてし  
 まった。

十二月十日 日曜日 曇  
 今日、日記がたまつて  
 しまったので、あわてて  
 一生懸命で、書き始めた  
 ので、大へん時間がかか  
 ってしまった。  
 夕方、少し、たびれてし  
 まったので、ぼんやりし  
 てゐると、やがて、うれし  
 い。晩御飯になつてし  
 まった。  
 とても晩御飯はおい  
 しかった。

十二月十一日 月曜日 晴  
 今日、私達が自習をし  
 てゐると、ちのうけにさ  
 に来た。  
 ちようめんみには、なのに、21  
 番まで一ぱい書いてあつ  
 た。一枚めくるごとにみ  
 んな、「わあ、わあ」と、ひめ  
 いをあげた。  
 お八つには、あまのいあまのい  
 びすけつとが、出た。  
 宿舎へ歸つてから、皆で、  
 トランプをして遊んだ。



十二月十二日 火曜日 晴  
 今日、もよく晴れて、いつ  
 もどほり、富士山が、大へ  
 んきれいに見えた。  
 午後に、私は、目が悪いの  
 で、療養所へ行くのをひと  
 思つてゐたら、行かなかつ  
 たので、嬉しいと思つたら  
 ば、音楽のしけんがあつ  
 た。  
 特別攻撃隊のところを  
 歌った。  
 みんな、とてもお上手だつ



たが私はへただった。

十二月十三日 水曜日 晴



作日の晩に、いやに何だか音がへんでけさ、お子洗ひに起きた時に、いやに外が明かると思つたら、雪が降つて、少しもつてゐた。

朝、私は、長ぐつをはいて行つた。

げたの人達は、雪がげたにふつついて、たかげたみだいになつて困してゐた。

私は長ぐつの有がたさを、つくづく感じた。

十二月十四日 木曜日 晴



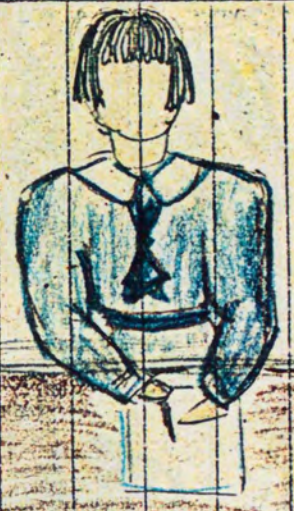
今日は、午後、ちのうけんさをしたので、五年生は、たゝ重そくていに行くので、そくなつてしまつたので、あとから、ゆつくり行つた。

急いで洋服をぬいて、お部屋の中にはいつた。

今までに私は、〇・六ふえて、三・六になつた。

ふえて私は、とても嬉しかった。

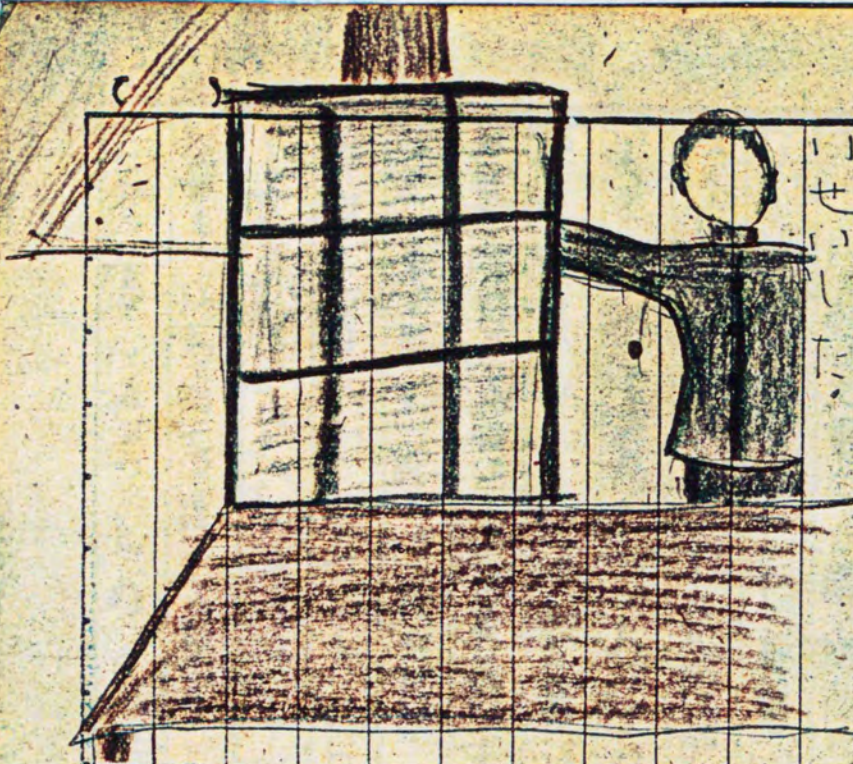
すむと、私は目が悪いので、相良さんと宮澤さん  
と七理さんはのこった。  
目をがんごんさんに洗ってもらってから、あとから  
歸って来た。



十二月十五日 金曜日 曇  
今日の午後に國史のし  
けんがあるので、八缺先  
生が午前中から紙を持  
ち、もんだいを一生懸命に  
作っていらつしやる。  
私ははらはらして、こはく  
て、しかたがあつた。  
何をやるにもはせいでし

まった。

國史がすんだ時はよく出来なかつたが、氣がせ  
いせした。



十二月十六日 土曜日 晴  
今日は、二時間目から始め  
たので、國語のしけんがぬ  
けると思つて、大喜びで  
おました。  
地理の時間は自習をした。  
お習事の時間に國語のし  
けんをするとおつしやつた  
ので、びつくりして練習した  
がおひつかなかつた。

國語の時間もすみ次の時間は算数のしけんであ  
る。

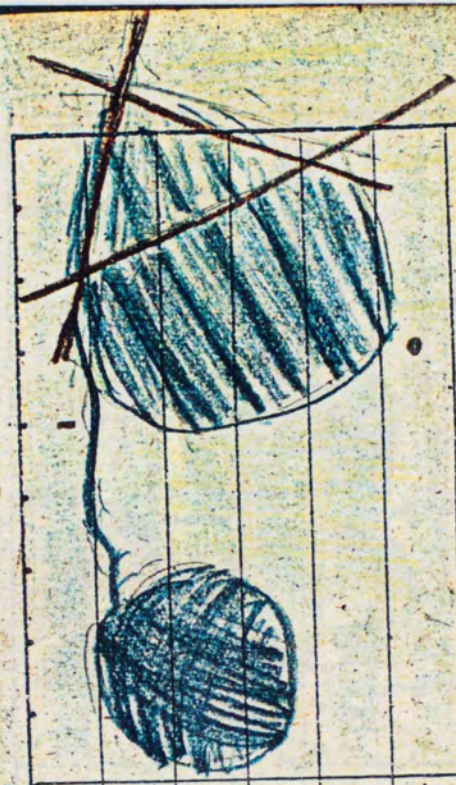
たいこが鳴った。宮村先生は、すぐにいらつしやった。  
しけん紙をいただいた時にあられがばらばら降  
つて、とめどがなかった。一生懸命であられをばら  
つた。

あられもやんだ。算数はとてもむづかしかった。

十二月十七日 日曜日 晴

五年面會日

今日はよいお天氣になり  
ました。が、とても風がひど  
くて寒い事たらありま  
せんでした。



今日はお母様が御用があるので、お姉様がいら  
つしやるので、楽しみにしてゐました。

オバーを見て、腰掛に、腰掛けを待つてゐました。  
なかなかいらつしやらない。一人になつたがまだい  
らつしやらない。しかたがないので、あへさへすればい  
いと思つてあきらめながら待つてゐた。

頭のけはみぢかいし、寒くてし方がない。たうたう  
お晝になつた。晝食がすみ、お風呂から出て間も  
なく、名前を呼ばれた。門の所へ行くと、お姉様が  
荷物を持つて立つていらつしやった。私はとても嬉  
しかつた。ござを持つて、運動場へ行き、荷物を開  
いたり、いろいろ話したり、あみものをしたりしてゐ  
たが、寒くなつたので、荷物を机の上におき、ぶら

ぶら歩いたりしてゐたが、ある日なたの所でとまり、あいた地理のレクンがあるの、お姉様に一生懸命におそはった。

久しぶりでおそはったのですから、とても嬉しかった。夕食のたいこが鳴ってから、七理さんのお母様といつしよにお歸りになった。



十二月十八日 月曜日 曇り  
けさはとても寒かったの、お食事がすむと、あまりの寒さにたき火にあたりてゐると、泣きたいほど、氣持が悪くなったので、近藤先生に言ふと、武村さんに

おかりして寝ていらつしやいとおっしゃったので、喜門先生に言つて、女學校で寝てみました。

三部五年が風呂たきをしてゐるので、とてもけむかった。

お晝御飯が終りさうの時に、さいれんが鳴ったので、ゆつくりと、たべて、學園へ行き、防空壕の中にはいつた、かいじよになると、又、女學校へ行つて、ゆつくりと、寝てゐた。

晩御飯の時に、保坂さんが、御飯を持つて来て下さった。

それから、暖かくなって、宿舎へ歸つた。すると、皆がしんせつに、おふとんを敷いて下さったので、静かに寝た。

した。おち  
 けりもはよくつけて五つ位なのに今日はふつうで  
 ず位つけました。  
 そして二げんよくつけたのが、四でした。  
 あまりよくつけるやぢになつて嬉しくて、げぢげ  
 やつたので又だんだんへたになつてきてしまひま  
 した。  
 又しんけんになつてやつてあるうちにつかれるき  
 だんだんと又へたになり、しぜんとだめになつ  
 てしまつた。  
 とても暑くなつたのでやめてしまひました。  
 ぞして、机の所にきて、樂しみにしてゐる、あみ  
 みのを始めた。

部首名稱

イ	にんべん	火	ひへん	月	にくづき	耳	みへん	穴	あなかんむり	勺	つみかまへ	受	るまた
イ	ぎふにん	夕	がつへん	言	ごんべん	足	あしへん	雨	あめかんむり	支	えだねう	又	こまた
止	とめへん	車	くるまへん	来	きこへん	戸	かどへん	竹	たけかんむり	又	えんねう	リ	りつたう
口	くちへん	日	ひへん	貝	かいへん	衣	ころもへん	声	こゑかんむり	心	れんぐわ	貝	こがひ
シ	さんずん	木	きへん	豆	まめへん	立	たちへん	魚	いさかなむり	文	ぶんねう	貝	こがひ
シ	さんずん	禾	のぎへん	酉	とりへん	玄	をたんへん	彡	かみかんむり	走	そうねう	貝	こがひ
手	てへん	采	のぎへん	金	かねへん	玉	たまへん	疒	まだれ	又	ぶんねう	日	ひらび
巾	はへん	示	しめすへん	食	しょくへん	角	つのへん	疒	まだれ	文	ぶんねう	血	あくら
隄	こさへん	石	いしへん	骨	ほねへん	一	けさかんむり	疒	まだれ	八	はちがしら	欠	あくら
才	けものへん	矢	やへん	馬	うまへん	六	うかんむり	疒	まだれ	人	ひとがしら	隹	ふるとり
才	けものへん	矢	やへん	馬	うまへん	六	うかんむり	疒	まだれ	人	ひとがしら	隹	ふるとり
弓	ゆみへん	目	めへん	矛	ほこへん	尸	しかねむり	口	くにかまへ	岡	あみがしら	韋	なめしかは
女	をんなへん	糸	いとへん	革	かはへん	巾	くかんむり	口	くにかまへ	巴	はつがしら	皮	けがは
米	こめへん	虫	むしへん	艸	ほつきへん	心	つめかんむり	門	もんがまへ	阝	ふしづくり	邛	おほざと
片	かたへん	月	つきへん	方	かたへん	戸	かどへん	行	ゆきかまへ	隹	ふとくり	邛	おほざと